

第1部門A 伝統・日本

和桜 ^{いわさき}岩崎 ^{ぜんた}善太 (兵庫県) ⑤

明治5年7月から和紙で手彫桜青1銭、朱2銭、赤2銭、褐色半銭。明治6年6月から発行の黄色2銭、紅色4銭、高額の青緑10銭、淡黄緑10銭、紫20銭、黒30銭。

明治7年1月1日から仮名入和紙紫褐色6銭、黄色2銭、未発行の赤紫色20銭、黒色30銭迄。和紙に印刷された桜切手を未使用の版別、使用済、使用カバーを整理したものです。

和桜

明治5年7月から和紙(日本紙)桜藍色1銭(松田印刷、政府印刷)は26版、朱2銭(松田印刷)と赤2銭(政府印刷)各2版、褐色半銭(松田印刷、政府印刷)輸出用4版、明治6年6月から発行の黄色2銭は政府印刷のみで15版、紅色4銭も15版、青緑色10銭(松田印刷)淡黄緑色10銭(政府印刷)は各1版、紫色、淡紫色20銭(松田印刷)各1版、黒色30銭1版。明治7年1月1日から片仮名を入れた和紙紫褐色6銭がイからリ迄9種、黄色がイとタ(輸出用)、さらに未発行の赤紫色20銭口、黒色30銭イ迄の和紙で印刷された桜切手を未使用の版別、使用済、使用カバーを整理したものです。

松田印刷 松田印刷の1銭銀PL 3、4、10銭の短しL(Katsuda Long Large)目打の短目打が珍しい。松田印刷は基本、短器目打(切手用印刷機1片ずつの目打)で打っており、目打12が多く使われ目打11は非常に少ない。短器目打は非常に効率が悪かった。短器目打とMLし目打との混合目打も存在するが紫2銭は少なく、10銭には普通に混合目打が使用された。

平銭には縦3枚ストリップの切手無短目打は横目打用スレーダが短器目打では此の1点だけが存在する。

政府印刷 1銭青1~4版、2銭赤2版、10銭淡黄緑、20銭は松田印刷の版を其のまま使用した。1銭は新しく作った5~26版を含め政府印刷の1銭青は1版から26版まで存在する。緑紙20銭と平銭の輸出用の為に使用済みが極少数しか現存しない。1銭青にも切手を嵌まに輸出されなかった本当の未使用の版が存在する。これらの版は未使用が極めて少ない。

仮名入り 明治7年1月1日に仮名入り6種紫褐色がイからリ、黄色2銭イ、大坂20銭イ黒点、ロ、ハの未発行、30銭イが発行されるが、6銭のイ、ロ以外の仮名、黄色2銭イの未使用は嵌まに輸出されなかったために其の現存数は極めて少ない。20銭のロ、ハ、30銭イは未発行だが30銭イは輸出用で極少数印刷され、在日外国人の切手輸入者が外国郵便に使用されたとされている。

参考資料 手彫切手専門カタログ 2007 手彫切手研究会
JSCA ビジュアル 日専 手彫切手編 日本郵趣協会
「青」 伊勢・津 出版左右一書
「手彫切手」 高野野郎著 日本郵趣協会

和紙青色1銭

明治5年7月20日(旧曆)発行
政府印刷

PL 5-1 PL 5-32 PL 8A-15 PL 9-24

PL10-2 PL10-38 PL11-40 PL12-22 PL13-29

PL15-4 PL15-13 PL16-9 PL16-4 PL16-29

PL12-25, 26, 33, 34 PL15- 8, 10, 17, 18

小銭入 左七宝通関1次

PL06-33
桜枝章紙2次

和紙黄色2銭

PL 1-7 PL 1-8 PL 1-21 PL 2-40

外郷1212-1 伊勢・津 越後・船橋 播磨・三木

PL 2-27 PL 5-31 PL 5-33 PL 6-14 PL 6-18

播磨・磐前 播磨・船橋 紀伊・和歌山 白旗十字 近江・大津

PL 7-1P PL 7-25 PL 7-30 PL 7-3C

備後・鞆津 岩代・郡山 安芸・広島 近江・愛知川

PL 9-13 PL 9-39 PL10-14

播磨・月輪 土佐・嶋 岩代・桑折

PL10-24 PL13-5 PL 7-15 PL13-28 PL15-15

陸前・石巻 上野・富岡 近江・大溝 羽後・久保田 滝江・柳川

和紙紫色20銭

松田印刷
四角短器目打12

大阪〆タ 大阪一五、三、一三、十
北廣島引受付
野中 丹後國 熊野郡 三、一六、
書留重慶使

京都府丹後國熊野郡
第ニ組三分村
西垣七右衛門
大石衛門
出頭月限四月四日

明治15年3月13日、大阪控訴裁判所
差立て京都府丹後國熊野郡三分村宛。
多額重慶使料金18圓と書留料金6圓
得込小利金1圓の25圓取り。